

終末期医療の現場でなぜ？ - 西日本防災システム

2013 01 17

昨年12月5日、広島市の終末期医療を行う施設の、入所していた高齢女性が死亡した火災で、警察は1月17日、施設に勤務する介護福祉士の女を殺人などの疑いで逮捕しました。女は「人間関係でストレスがあり、火をつけた」などと供述しているようです。

殺人と現住建造物等放火未遂の疑いで逮捕されたのは、広島市東区の介護福祉士(21)で警察によると、容疑者は先月5日、広島市東区の医療施設のホスピス・ナーシングホーム『クリーム』で、入所者Kさん(当時85)の掛け布団に火をつけて殺害した疑いが持たれています。Kさんは全身にヤケドを負い、翌日に死亡しました。

警察は放火の可能性も視野に捜査していましたが、施設職員への聞き込みなどによってこの容疑者が浮上、事情を聴いていました。

警察の調べに対し、容疑者は「人間関係でストレスがあり、火をつけた。殺すつもりはなかった」と供述しているようです。

この火災は12月5日午後6時半ごろ、広島市東区戸坂大上のがんなどの終末期の医療を行う施設ホスピス・ナーシングホームクリームの2階の個室から火が出て、この部屋のベッドや天井などが燃えたものです。

火は、施設の職員がまもなく消し止めましたが、この火災で個室に入所していた広島市安佐北区口田の、Kさん(85)がやけどをして病院に搬送され、火災からおよそ1日たった6日に死亡しました。

警察によりますと、Kさんが入所していた個室はおよそ16平方メートルで、このうちKさんが寝ていた介護用の電動ベッド周辺の燃え方が激しかったようです。

Kさんは会話をすることが難しく、ほぼ寝たきりの状態で、火災が発生した際もベッドにいたということで、警察では火災の原因などを詳しく調べていました。安らかに終末を迎えるために入った施設でこのようなことになり、何ともいえません。御冥福をお祈りいたしております。



西日本防災システム

NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

